

# KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

## スペイン語におけるアラビア語起源の定冠詞 al- の有無

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2024-03-18 キーワード (Ja): アラビア語定冠詞 al, スペイン語, 語根, 外来語, アラビア語起源語 (arabismo) キーワード (En): 作成者: 土井, 裕文 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	<a href="https://doi.org/10.18956/0002000153">https://doi.org/10.18956/0002000153</a>

# スペイン語におけるアラビア語起源の定冠詞 al- の有無

土 井 裕 文

## 要 旨

スペイン語で al- を冠する単語の多くはアラビア語起源だといわれる。al- はアラビア語の定冠詞であるのだが、その al- とアラビア語における語根に関連があるのかを考察する。結論は次の3つである。

1. 語根に3子音を含んでいる場合 (例: algodón) や、アラビア語の意味を保持している (例: adobe) など、アラビア語らしさを継承している場合に、al- がつきやすい。
2. アラビア語にとって外来語 (サンスクリットなど) にあたる場合 (naranja) は、al- がつかない。ただし、ギリシア語起源の場合は、al- を伴っていることが多い。(arroz)
3. 名詞以外の品詞から入った語 (sandía, mezquino) やフレーズとしてまとまって入ってきた語 (marfil)、アラビア語起源ではあるものの、定冠詞のないラテン語の時代に定着していた語 (cenit, cifra) については、al- がついていない。

キーワード：アラビア語定冠詞 al、スペイン語、語根、外来語、アラビア語起源語 (arabismo)

## 1. 序

スペイン語にはアラビア語起源の語が豊富に含まれるといわれる。その中で、al- を冠する単語の多くはアラビア語起源だといわれる。例えば、al- を冠する alcoba 「寝室」はアラビア語から入ってきた。<sup>1)</sup> 他方、al- を冠していないアラビア語起源の語も少なくない。例を挙げると、hazaña 「偉業」は al- を伴った形にはなっていない。

本稿では、アラビア語起源の語に関する al- の有無を考察していく。アラビア語のシステムにおいては、語根が重要な位置を占めている。アラビア語における語根とは、多くの場合3子音で構成される抽象的な概念である。

例えば、كتاب kitāb 「本」には、كتب k-t-b という語根が含まれている。この كتب k-t-b は、抽象的なレベルで「書(く)」を示しており、実際：

مكتبة maktaba(t) 「図書室」 (ما ma- : 場所)

تكتب takātaba 「文通する」 (ت ta- : 相互)

などの派生語にも、كتب k-t-b が含まれている。アラビア語起源のスペイン語の単語に、アラビア語における語根が認められるかどうかを検討していく。

## 2. アラビア語起源の al- についての先行研究

アラビア語起源語の主な研究として、吉田 (1957)、布施 (1982)、三好 (1984a、1984b)、前田 (1998)、Lindqvist (2021)、水戸 (2022)、土井 (2023) もあるが、本稿では、アラビア語起源の al- に言及している、布施 (1971)、長谷川 (2011)、Millar Cerda (1998)、水戸 (2023) を先行研究として扱う。

### 1. 布施 (1971)

布施 (1971) は、少なくともスペイン語におけるアラビア語起源語を扱った日本で最初の研究である。アラビア語起源語について、布施 (1971) は次のように言及している。

多くは al をとりうる。しかしなぜ al がつくつかないかは、説明できない。時代が下るにつれてつかない語が多くなるが、その理由は解らない。また相関性があるかどうかも疑わしい。ここでは、al がつくつかないかは全く任意であるとしたい。(布施1971:52) (下線は筆者による)

20世紀においては、アラビア語起源語に al- がつくのは「全くの任意である」という帰結になっている。本稿ではこれについても検証する。

### 2. 長谷川 (2011)

長谷川 (2011) は、主にカタロニア語におけるアラビア語起源語の分析である。スペイン語がメインではないものの、カタロニア語との対比でスペイン語に言及されている箇所は多い。長谷川 (2011) がアラビア語起源語の al- について言及している箇所は次である。

いくつかの例を見ても、たとえばスペイン語からカタロニア語へ al- つきで借用された後にこれを取り去り、再解釈して、語頭に al- のない語形を用いているような例はほとんどない。その逆もしかりで、al- なしで借用された後にこれを語頭につけて用いる語形もない。このことから、これはアラビア語から借用される段階で、al- の有無が決定される要因や理由があり、その経過を経た結果が語形に反映されていると考えることに不都合はなさそうである。(長谷川2011:12) (下線は筆者による)

21世紀に入り、al- の有無には理由があると考えられていく。本稿は、al- の有無に要因があるという立場を取る。

### 3. Millar Cerda (1998)

Millar Cerda (1998) は、スペイン語のなかのアラビア語起源語を調査した研究である。音声面から形態、地名に至るまでの研究が記されていて、その791ページに、アラビア語起源語の al- に関する形態的特徴が述べられている：

Muchos préstamos fueron incorporados con el artículo definido /al/, que pasó formar parte de los respectivos vocablos de origen arábigo, sin su valor morfológico... Millar Cerda (1998: 791) (下線は筆者による)

【筆者訳：多くの借用語は、定冠詞/al/を伴って組み込まれ、形態的な価値を持たずにアラビア語起源のそれぞれの語の一部を構成するようになった。】

元々のアラビア語定冠詞が、形態的な価値を持たずにアラビア語借用語に組み込まれた旨が記述されているが、本稿では、アラビア語起源語の al- は、形態的に意義があることを見出す。

### 4. 水戸 (2023)

水戸 (2023) は、語頭に al を関する単語はモーロ人のことばである、と述べるドン・キホーテ第67章の内容<sup>2)</sup>を出発点として、アラビア語の定冠詞 al の問題を扱っている。「アラビア語冠詞alを語彙として扱っている辞書は、この Covarrubias の Tesoro と Diccionario de Autoridades (1726-1739) の二書のみで、それ以降アカデミア (RAE) 最新版に至るまで見られないようである」(水戸 2023: 109) と、スペイン語において al- を語彙とみなす研究者が非常に少ないことを指摘している。

水戸 (2023) の時代になって、al- の付与についての考察をすることになる。ただし、本稿で見ていくようなフレーズ単位でスペイン語に入っているアラビア語起源語には言及していないし、アラビア語の語根にも着目していない。

### 3. フレーズ単位でスペイン語に入ったアラビア語起源語には al- が付かない

日本語には、例えば、英語の Come on! に由来するカモン、Let's (go) に由来するレッツ(ゴー)という外来語が存在する<sup>3)</sup>。カモンは、元の英語では2単語なのだが、1つのまとまりとして借用している。スペイン語におけるアラビア語起源語も同様で、元々が2単語以上

で構成されるフレーズの場合もある。例を挙げると、ojalá や mengano である。このような元のアラビア語においてフレーズとなっているものには、al- がついていない。

	西和中第2版の訳	DRAE23 版の語源情報	アラビア文字による転写
ojalá	どうか…であるように	Del ár. hisp. law šá lláh 'si Dios quiere'.	لَوْ شَاءَ اللَّهُ
mengano	誰それ	Quizá del ár. hisp. man kán, y este del ár. clás. man kán 'quien sea'.	مَنْ كَانَ

他にも marfil「象牙」も al- が付かない条件に合致している。marfil については、44で詳述する。

#### 4. 岡本（2021）に採録されたアラビア語起源語に関する al- の有無

布施（1971）では、時代がくだると al- がつきやすいのではないかとやっている。実際はどうか、検証してみよう。辞書からアラビア語起源語を完全に拾い上げるのは大変な作業であるので、岡本（2021）のアラビア語起源語に取り上げられている語に限定して検証する。

岡本（2021）での古い5語		岡本（2021）での新しい5語	
初出年		初出年	
944	azul	1495	ajonjolí
949	barrio	1495	sandía
950	algodón	1570	guarismo
950	mezquino	1582	azafata
1020	azote	1680	tarifa

（初出年は Corominas（2008）による）

Corominas（2008）の情報で古いもの5語、新しいもの5語取り出してみたが、古いもの、新しいもののいずれにも al- が認められる場合（algodón、ajonjolí、azafata）もあるし、認められない場合（barrio、mezquino、sandía、guarismo、tarifa）もある。よって、時代によって al- がつきやすいという仮説に対する証拠は今のところないと言える。

この調査を通して新たに判明したことがある。アラビア語において形容詞的に使用できる属格形、アラビア語において副詞的に使用できる対格形など、主格ではない名詞、そして形容詞から借用したものには al- がついていない（barrio、hazaña、sandía、balde、mezquino）。<sup>4)</sup> 例外は見つかっていない。<sup>5)</sup>

##### 4.1 岡本（2021）におけるアラビア語起源語においてアラビア語定冠詞の伴う語

岡本（2021）で挙げられるアラビア語起源語のうち、アラビア語の定冠詞が認められるものは全部で32語あった。その32語を列挙したものが次である。なお、この表には、①『西和

中辞典』による代表的な訳語、②DRAE23版の語源情報、③語源情報から推定されるアラビア語（Alladin母音形）④前項③から得られた語根（Alladin語根）、⑤前項④に付随する日本語訳（Alladinによる意味）を付与している。以下、全ての表が同じレイアウトで構成される。次の表の9語において黄色（白黒印刷の場合、網掛け）の部分は語根が認められなかった。

	①西和中第2版	②DRAE 23版	③Alladin 母音形	④Alladin 語根	⑤Alladinに よる意味
aduana	税関	Del ár. hisp. addiwān, este del ár. clás. dīwān, y este del pelvi dēwān 'archivo'.	ديوان	دون	【男】 官庁
alcalde	市長	Del ár. hisp. alqáḏi, y este del ár. clás. qāḏī 'juez'.	قاض	قضي	【男】 裁判官
alguacil	警官	Del ár. hisp. alwazír, y este del ár. clás. wazír.	وزير	وزر	《男》 大臣
arrabal	町 [村] 外れ	Del ár. hisp. arrabáḏl, y este del ár. clás. rabaḏl.	ريص	ريص	【男】 郊外
almacén	倉庫	Del ár. hisp. almaḏzán, y este del ár. clás. maḏzan.	مخزن	خزن	【男】 倉庫
arancel	関税 (率)	Del ár. hisp. alinzál, y este del ár. clás. inzál.	إنزال	نزل	【男】 下ろす こと
arroba	アローバ、 (1) 重さの単位略@	Del ár. hisp. arrúb, y este del ár. clás. rub 'cuarta parte'.	ربع	ربع	【分】 四分の 一
alcohol	アルコール	Del lat. mediev. alcohol 'galena', 'polvo de antimonio para maquillarse los ojos', 'polvo o líquido obtenido por sublimación', 'alcohol', este del ár. hisp. al-kuḏl 'kohl a base de polvos de galena o de antimonio', y este del ár. clás. kuḏl.	كحول	كحل	【男】 アル コール
álgebra	代数学	Del lat. tardío algēbra, y este del ár. clás. al-ābru [walmuqābalah] 'reducción [y cotejo]'.	جبر	جبر	【動名】 接骨 すること
alquimia	錬金術	Del ár. hisp. alkimya, este del ár. clás. kīmiyā['], y este del gr. χυμεια chymeia 'mezcla de líquidos'.	كيميئة		【形】 化学の
adobe	日干しれんが	Del ár. hisp. alḏb, este del ár. clás. ḏb, y este del egipcio ḏbt.	طوب		【集】 煉瓦
albañil	左官, タイル職人	Del ár. hisp. albanní, y este del ár. clás. bannā; cf. port. alvanel.	بناء	بني	《男》 石工
alcázar	(アラビア風の) 王 宮;	Del ár. hisp. alqáḏr, este del ár. clás. qaḏr, y este del lat. castra 'campamento'.	قصر	قصر	【男】 城
alcoba	寝室	Del ár. hisp. alqúbba, este del ár. clás. qubbah, y este del pelvi gumbad 'cúpula [de un templo del fuego]'.	قبه	قب	【女】 ドーム

alfiler	ピン；留め針	Del ant. alfilel, este del ár. hisp. alḥilāl, y este del ár. clás. ḥilāl.	خِلَال	خِل	【男】 割れ目
alfombra	じゅうたん	Del ár. hisp. alḥānbal 'especie de poyal o tapiz para estrados', aún muy usado en Marruecos, y este del ár. clás. ḥanbal 'pelliza usada'. Del ár. hisp. alḥúmra, y este del ár. clás. ḥumrah 'rojez'.	خُمْرَة	حَمْر	【女】 紅
alhaja	(宝石・貴金属を使った) 装身具；宝石	Del ár. hisp. alḥāḡa, y este del ár. clás. ḥāḡah 'cosa necesaria o valiosa'.	خَاجَة	حَوَج	【女】 必要
almanaque	(天体の運行・年中行事などが記載された) 暦	Del ár. hisp. almanāḥ 'calendario', y este del ár. clás. munāḥ 'alto de caravana', porque los pueblos semíticos comparaban los astros y sus posiciones con camellos en ruta.	مَنَاخ	نَوخ	【男】 気候
azotea	屋上	Del ár. hisp. *assuḡáya, dim. de sáḥ, y este del ár. clás. saḥ 'terraza'.	سَطْح	سَطْح	【男】 屋根
aceite	(食用・薬用の) 油	Del ár. hisp. azzáyt, este del ár. clás. azzayt, y este del arameo zaytā.	زَيْت	زَيْت	【男】 油
albóndiga	肉だんご	Del ár. hisp. albúnduqa, este del ár. clás. bunduqah, y este del gr. [κάρυον] ποντικόν[káryon] pontikón '[nuez] póntica', por similitud en la forma.	بُنْدُقَة		【個】 ハシバミの実
ajonjolí	ゴマ	Del ár. hisp. aḡḡulín, y este del ár. clás. ḡulḡulān.	جُلْجُلَان		【男】 ゴマ
algodón	綿	Del ár. hisp. alquḡn, y este del ár. clás. quḡn.	قُطْن	قَطْن	【男】 綿
atún	マグロ	Del ár. hisp. attún, este del ár. clás. tunn, este del lat. thunnus, y este del gr. θύννος thýnnos.	تُنْ		【男】 マグロ
arroz	イネ	Del ár. hisp. arráwz, este del ár. clás. áruz[z] o aruz[z], este del gr. ῥυζα óryza, y este del tamil arici.	رُزْ		【男】 米
azafrán	サフラン	Del ár. hisp. azza'farán, y este del ár. clás. za'farān.	زَعْفَرَان		【男】 サフラン
azúcar	砂糖	Del ár. hisp. assúkkar, este del ár. clás. sukkar, este del gr. σάκχαρι sákchari, este del pelvi śakar, y este del sánscr. śarkarā.	سَكَّر	سَكْر	【男】 砂糖
ajedrez	チェス	Del ár. hisp. aššāḡranḡ o aššīḡranḡ, este del ár. clás. šīḡranḡ, este del pelvi catrang, y este del sánscr. chaturaḡga 'de cuatro miembros'.	شَطْرَنْج		【男】 チェス

azafata	フライトアテンダント	De azafate, azafate: Del ár. hisp. *assafá, y este del ár. clás. safá, 'canastillo'.	سَفَط		【男】籠
azar	偶然	Del ár. hisp. *azzahr, y este del ár. zahr 'dado!'; literalmente 'flores'.	زهر	زه	【集】花
azote	鞭 (むち)	Del ár. hisp. assáw, y este del ár. clás. saw.	سَوَط	سوط	【男】鞭
laúd	リュート	Del ár. hisp. al'úd, y este del ár. clás. 'ūd.	عود	عود	【男】棒

これら32語のうち、元のアラビア語を辞典で調べた場合、語根の表示があったものは、23語あった。語根を具備する率は、全32語中23語であるので、72%にも昇る。

#### 4.2 語根が認められないのに al- がついている語

今度は、語根が認められないのにアラビア語定冠詞 al- が付与されている単語を見ていこう。次の9例が該当する。

	①西和中第2版	②DRAE 23版	③Alladin 母音形	④Alladin 語根	⑤Alladinによる意味
alquimia	錬金術	Del ár. hisp. alkímia, este del ár. clás. kimiyā[, y este del gr. χυμειά chymeía 'mezcla de líquidos'.	كِيْمِيَّة		【形】化学の
adobe	日干しれんが	Del ár. hisp. aḡūb, este del ár. clás. ūb, y este del egipcio ḳbt.	طوب		【集】煉瓦
albóndiga	肉だんご	Del ár. hisp. albúndiga, este del ár. clás. bunduqah, y este del gr. [κάρυον] καρύκον [káryon] pontikón ['nuez] pónica, por similitud en la forma.	بُنْدُقَة		【個】ハシバミの実
ajonjolí	ゴマ	Del ár. hisp. aḡḡulūn, y este del ár. clás. ḡulūlān.	جُلْجُلَان		【男】ゴマ
atún	マグロ	Del ár. hisp. attún, este del ár. clás. tunn, este del lat. thunnus, y este del gr. θύννο; thýnnos.	تُنْ		【男】マグロ
arroz	イネ	Del ár. hisp. arráwz, este del ár. clás. áruz[z] o aruz[z], este del gr. ὄρυζα óryza, y este del tamil arici.	رَزْ		【男】米
azafrán	サフラン	Del ár. hisp. azza 'farán, y este del ár. clás. za 'farān. <sup>6)</sup>	زَعْفَرَان		【男】サフラン
ajedrez	チェス	Del ár. hisp. aššairanḡ o aššīranḡ, este del ár. clás. šīranḡ, este del pelvi catrang, y este del sánscr. chaturaṅga 'de cuatro miembros'.	شَطْرَنْج		【男】チェス
azafata	フライトアテンダント	De azafate, azafate: Del ár. hisp. *assafá, y este del ár. clás. safá, 'canastillo'.	سَفَط		【男】籠

al-を冠するアラビア語起源の語は、アラビア語での意味を現代スペイン語でも保持している例が多い。<sup>7)</sup> アラビア語での意味を「借用した」と認識していると考えられる。

また、アラビア語に入る以前においてギリシア語を起源に持つ単語が4単語ある (alquimia、albóndiga、atún、arroz)。<sup>8)</sup> ただ、ギリシア語を起源にもつものとアラビア語の関係はよくわからない。

#### 4.3. アラビア語定冠詞の al- を具備しないうえに、語根が認定できないもの

岡本 (2021) のうち、アラビア語定冠詞の al- を具備しないものは、全部で33語あった。その33語を列挙したものが次である。4.4で詳述する単語に黄色 (白黒印刷の場合、網掛け) を施した。

	①西和中第2版	②DRAE 23版	③Alladin 母音形	④Alladin 語根	⑤Alladinに よる意味
barrio	(都市の中の) 地区	Del ár. hisp. *bárrī 'exterior', y este del ár. clás. barrī 'salvaje'.	بَرِّي	بر	【形】陸上の
hazaña	偉業	Del ár. hisp. ḥasána, y este del ár. clás. ḥasanah 'buena acción', infl. por el ant. fazer 'hacer'.	حَسَنَة	حسن	《形》美しい
jinete	騎手	Del ár. hisp. zanāti, gentilicio de Zanāta 'Zeneta', confederación de tribus bereberes conocida por la cría de caballos y el dominio de la equitación.			
rebato	警鐘	Del ár. hisp. ribāṭ 'servicio en rábida', y este del ár. clás. ribāṭ.	رِبَاط	ربط	【男】隊商宿
zaga	後ろ, 後部, しんがり,	Del ár. hisp. sāqa, y este del ár. clás. sāqah 'retaguardia'.	سَاقَة	سوق	【女】後衛
tarea	(一定の時間で終わられる) 仕事	Del ár. ṭarīḥa, y este de la raíz del ár. clás. ṭrḥ 'echar'.	طَرِيحَة	طرح	【形】投げられた
tarifa	料金 (表)	Del ár. hisp. ta'rifa, y este del ár. clás. ta'rifah, de ta'rif 'definición'.	تَعْرِيفَة	عرف	【女】料金
cenit	天頂	De zenit, error de lectura por zemt, y este transcripción del ár. samt [arra's]; propiamente 'dirección [de la cabeza]'.	سَمْت	سمت	【男】道
cifra	数字	Del b. lat. cifra, este del ár. hisp. ṣifr, y este del ár. clás. ṣifr 'vacío'.	صِفْر	صفر	【男】ゼロ
droga	薬品	Del fr. drogue, y este quizá de or. celta.			
guarismo	(アラビア) 数字	Cf. algoritmo. algoritmo: Quizá del lat. tardío *algotarismus, y este abrev. del ár. clás. ḥisābu l'ubār 'cálculo mediante cifras arábigas'.	؟		
redoma	フラスコ	Del ár. hisp. *raṭūma, y este del ár. clás. raṭūm 'estrecha de vulva'.	رَطْم	رطم	【動名】引き込むこと
azulejo	タイル	De azul y -ejo. Del ár. hisp. azzuláy[ā].	لَازُورِد		【男】紺青

スペイン語におけるアラビア語起源の定冠詞 al- の有無

gabán	外套 (がいとう), コート.	Quizá del ár. clás. qabā'.	قِيَاء		【男】 打掛
marfil	象牙 (ぞうげ) (製品)	Del ár. hisp. 'a,m alfil 'hueso de elefante'.	عظم فيل	عظم فيل	【男】 骨象 【男】 象
jarra	(柄のついた広口の) 水差し	Del ár. hisp. ḡarra, y este del ár. clás. ḡarrah.	جَرَّة	جر	【女】 壺
taza	カップ	Del ár. hisp. ṭassa, este del ár. ṭassah o ár. clás. ṭast, y este del persa tašt 'cuenco'.	طَسْت		【男】 金盃
berenjena	ナス	Del ár. hisp. baḏiḡāna, este del ár. clás. bāḏiḡānah, y este del persa bātingān.	بَاذِنَاجَان		【集】 茄子
fideo	ヌードル	Quizá del mozár. y ár. hisp. fidáwš.	؟		
jarabe	シロップ	Del ár. hisp. šarāb, y este del ár. clás. šarāb 'bebida'; cf. sirope.	شَرَاب	شرب	【男】 飲み物
judía	インゲンマメ	Quizá de judío. judío: Del lat. Iudaeus, y este del hebr. yehūdī.	؟		
limón	レモン	Del ár. hisp. la[y]mūn, este del ár. laymūn, este del persa limu, y este del sánscr. nimbū.	لَيْمُون		【集】 レモン
naranja	オレンジ	Del ár. hisp. naraḡa, este del ár. nāraḡ, este del persa nārang, y este del sánscr. nāraḡga.	نَارُوج		【男】 苦いオレンジ
sandía	スイカ	Del ár. hisp. *sandīyya, y este del ár. clás. sindiyah 'de Sind', región de Pakistán de la que procede.	السِنْد		【地冠】 シンド地方
toronja	ザボン	Del ár. hisp. turūḡa, este del ár. clás. turuḡah, este del persa toraḡ, y este del sánscr. mātuluḡga.	تَرَنْجَة <sup>9)</sup>		
zanahoria	ニンジン	Del ár. hisp. *safunnárya, y este del gr. σταφυλίνη ἄγρια staphylínē agría 'zanahoria silvestre'.	？		
asesino	殺人の	Del ár. ḥaššāšin 'adictos al cáñamo indio'.	حَشَائِشِين <sup>10)</sup>		
azul	青い	Quizá alterac. del ár. hisp. lazawárd, este del ár. lāzaward, este del persa laḡvard o lažvard, y este del sánscr. rājāvarta 'rizo del rey'.	لَازُورِد		【男】 瑠璃色
balde	de balde ただで, 無料で. en balde 無駄に, むなしく.	Del ár. hisp. bā'il, y este del ár. clás. bā'il 'vano', 'inútil', 'sin valor'.	بَاِطِل	بطل	【形】 効果のない
mezquino	けちな	Del ár. hisp. miskín, este del ár. clás. miskín, este del arameo miskēn[ā], y este del acadio muškēnu[m] 'súbdito de palacio'.	مِسْكِين	مسكن	《形》 哀れな

fulano	(名前を言う代わりに)ある人	Del ár. hisp. fulán, este del ár. clás. fulān, y este quizá del egipcio pw rn 'este hombre'.	فُلَان		《男》某氏
halagar	喜ばせる	Der. del ár. hisp. ḥaláq 'palomo ladrón'.	خَلَق	خلق	【男】報奨
tambor	太鼓	Quizá del ár. hisp. *'abbūl, hipocorístico del ṭabāl.	طَبَل	طبل	《他》太鼓を打つ

alを伴わない33語のうち、語根が認められるものは、16語ある。ただし、16語のうち、barrio, hazaña, tarea, balde, mezquino, tambor の6語は、元々のアラビア語では形容詞や動詞に由来している。形容詞や動詞に由来する場合、元々のアラビア語では al- を付与する環境にない。また、現代スペイン語の halagar は動詞として機能しているがゆえ、アラビア語とはいえ定冠詞の al- と結びつきにくかったのも頷ける。

興味深いのは、naranja や berenjena である。naranja はサンスクリット、berenjena はペルシャ語に端を発している。こういったアラビア語にとって「外来語」である場合にも定冠詞の al- が付与されない。

#### 4.4. 語根が認定できるのに、al- を冠していない語

4.3で扱った語根が認定できる16語のうち、barrio, hazaña, tarea, balde, mezquino, halagar, tambor の7語を除外した一覧が次である。

	①西和中第2版	②DRAE 23版	③Alladin 母音形	④Alladin 語根	⑤Alladinによる意味
rebato	警鐘	Del ár. hisp. ribáṭ 'servicio en rábida', y este del ár. clás. ribāṭ.	رِبَاط	ربط	【男】隊商宿
zaga	後ろ, 後部, しんがり.	Del ár. hisp. sāqa, y este del ár. clás. sāqah 'retaguardia'.	سَاقَة	سوق	【女】後衛
tarifa	料金(表)	Del ár. hisp. ta'rifa, y este del ár. clás. ta'rifah, de ta'rif 'definición'.	تَعْرِيفَة	عرف	【女】料金
cenit	天頂	De zenit, error de lectura por zent, y este transcripción del ár. samt [arra's]; propiamente 'dirección [de la cabeza]'.	سَمَت	سمت	【男】道
cifra	数字	Del b. lat. cifra, este del ár. hisp. ṣifr, y este del ár. clás. ṣifr 'vacío'.	صِفْر	صفر	【男】ゼロ
redoma	フラスコ	Del ár. hisp. *ra'úma, y este del ár. clás. ra'ūm 'estrecha de vulva'.	رُطْم	رطم	【動名】引き込むこと
marfil	象牙(ぞうげ)(製品)	Del ár. hisp. 'a/m alfil 'hueso de elefante'.	عَظْم فِيل	عظم فيل	【男】骨象 【男】象
jarra	(柄のついた広口の)水差し	Del ár. hisp. ḡarra, y este del ár. clás. ḡarah.	جَرَّة	جر	【女】壺
jarabe	シロップ	Del ár. hisp. šaráb, y este del ár. clás. šarāb 'bebida'; cf. sirope.	شَرَاب	شرب	【男】飲み物

この9語を概観してみると、al-のつかないアラビア語起源の語は、意味の変化を呈している例が多い。例えば、jarabeについては、古典アラビア語の「飲み物」という意味ではなく、「(薬としての)シロップ」という意味で使われ出した結果、アラビア語の意味では使わないという意味でal-と馴染まなくなってきたと考えられる。<sup>11)</sup>

tarifaは、DRAE23版の語源情報を見ると、アラビア語での意味はdefiniciónとある。これを信じるとすれば、tarifaも古典アラビア語での意味とは異なっているということで、al-と結びつかなかったのも説明がつく。

marfilはal-のつかない環境である。新妻(2009:23)によれば「限定されているにも関わらず先行する語には定冠詞 ʾ を付けてはいけない」とあるように、marfilの後半部分にal-filというalをつけて限定しているので、先行するʾazmの部分には、al-を付けられないのである。

cenitやcifraは中世ラテン語時代に組み込まれているので、ラテン語に定冠詞がなかったためか、アラビア語の定冠詞の概念であるal-と馴染まなかったとも考えられる。

## 5. 結論

今まで述べてきたことをまとめると、次の3点になる。

1. アラビア語起源語のうち、語根に3子音を含んでいる場合(例: algodón)や、アラビア語の意味を保持している(aceite)など、アラビア語らしさを継承している場合(adobe)に、al-が付きやすい。
2. もとものアラビア語にとって外来語(サンスクリットなど)にあたる場合(naranja)は、アラビア語らしくないためか、al-がつかない。ただし、祖先にギリシア語起源を持つ場合は、al-を伴っていることが多い。(arroz)
3. 名詞以外の品詞から入った語(sandía, mezquino)やフレーズとしてまとまって入ってきた語(marfil)、アラビア語起源ではあるものの、定冠詞のないラテン語の時代に定着していた語(cenit, cifra)については、al-がついていない。<sup>12)</sup>

平易に述べるとするなら、いかにも「アラビア語」という特徴が感じられる場合にal-がついていると言える。<sup>13)</sup>

## 付記

本稿は、関西スペイン語学研究会第455回例会(2023年6月11日(日曜日)於:大阪市立北区民センター第2会議室)にて発表した内容に対して加筆・修正したものである。

注

- 1) 英語へも（カタロニア語やスペイン語・フランス語を経由しながら）al- を付帯して入った語がある。代表例は alcohol 「アルコール飲料」だが、aubergine 「ナス」や alcove 「(室内の) 入込み」などが見つかる。

**au·ber·gine** /ó·bəʒi:n | á·bəʒi:n, -lʒi:n; F. obeʁʒin/

— n. (pl. ~s /~z; F. ~/)

1 《英》ナス (eggplant).

2 なす色, 暗紫色.

[[《1794》□ F ~ □ Catalan alberginia □ Arab. albādhinjān eggplant ←al- the+Pers. bādhinjān]]

(『新英和大辞典』研究社. ただし、筆者が語源にあるカタルーニャ語のalberginiaのアクセント記号を正した)

また、alcove を *The Oxford English Dictionary* 2nd Edition, (1989: Vol.I p.302), Oxford University Press. で引くとフランス語を経由して英語に入ったことがわかる。

**alcove** (中略) [a. Fr. *alcôve*, ad. Sp. Pg. *alcova*, *alcoba*, ad. Arab. *al-qobbah*, i.e. *al* the + *qobbah* a vault, avaulted chamber; f. *qubba* to vault]

alcoveは建築用語として日本語にも定着しつつあり、国語辞典の多くに「アルコーブ」が立項されている。ただし、現在のマンションなどに普及する和製用法の「アルコーブ」に言及している国語辞典は、筆者の調べた限り、『大辞林』第4版だけである。

- 2) ドン・キホーテ第67章の該当箇所は次である。

y este nombre *albogues* es morisco, como lo son todos aquellos que en nuestra lengua castellana comienzan en *al*, conviene a saber: *almohaza*, *almorzar*, *alhombra*, *alguacil*, *alhucema*, *almacén*, *alcancia*, y otros semejantes, que deben ser pocos más; y solos tres tiene nuestra lengua que son moriscos y acaban en *í*, y son *borceguí*, *zaquízamí* y *maravedí*. *Alhelí* y *alfaquí*, tanto por el *al* primero como por el *í* en que acaban, son conocidos por arábigos.

(Cervantes Saavedra, Miguel de (1993: 556) *EL INGENIOSO CABALLERO DON QUIJOTE DE LA MANCHA SEGUNDA PARTE* (Diseño y maquetación: José Ramón Sánchez), Anaya.)

カステイーリャの言葉で《アル》に始まるのがすべてそうであるようにこのアルボーグと言う名前もモーロの言葉であるな。たとえばアルモアサ (馬櫛)、アルモルサール (昼食をとる)、アルオンブラ (絨毯)、アルグアシル (警吏)、アルマセン (倉庫)、アルカンシーア (貯金箱)、その他にもそう多くは

あるまい。カスティーリャ語には三つだけ《イー》で終わるモーロの言葉があるが、それはボルセギー（半長靴）、サキサミー（屋根裏部屋）、マラベディー（貨幣単位）などじゃが、それにアレリー（アラセイトウ）とアルファキー（法博士）などは《アル》で始まって《イー》で終わるのでアラブの言葉と分かる。

（セルバンテス著、岩根園和訳（2012:475）『新訳ドン・キホーテ』彩流社。）

- 3) 国語辞典で「カモン」を立項しているものは少ないが、『大辞泉（デジタル大辞泉）』には「カモン」が項目として挙げられている。また、「いっしょに何かをしようとさそいかけるときのことば」という意味のレッツは『三省堂国語辞典』にある。レッツゴーは『大辞泉（デジタル大辞泉）』のほか『大辞林』に立項されている。
- 4) 岡本（2021）で扱われていない他品詞語に、現代スペイン語 hasta حَتَّى や、中世スペイン語の呼格を表す ya يا（Cantar de Mio Cid 41行目 Ya Campeador, en buena çinxiestes espada! もしめでたき時に剣を佩（は）きそめしカンペアドル様！ [『わがシッドの歌』牛島信明・福井千春訳（1994:10）、国書刊行会]）も考えられるが、これらのアラビア語起源語にも al- が付いていない。
- 5) 例えば、スペイン語の yemení「イエメンの」は、yemen「イエメン」+ i「～の」という語構成、jabalí「いのしし」は jaba「山」+ i「～の」という語構成になっている。名詞の、いわゆる属格形であるのだが、属格形単体が借用された例で al- を伴っている例は見つからない。
- 6) azafrán はアラビア語起源であることは間違いないが、中世ラテン語時代に safranum として入っている。イタリア語 zafferano、フランス語 safran、現代ギリシア語 saphráni σαφράνι では a- のない形が発達する一方、スペイン語・ポルトガル語だけに a- が付いている（参考：寺澤1997: 1207）。カタルーニャ語も a- のない safrà という形である（Bruguera i Talleda 1996: 818）。
- 7) alfanje「三日月刀」は、Real Academia Española（2013）によると、alfanje, alfange, alfanie, alfanxe, alhange, alfangete, alfanjonazo, alfangillo, alfanjón もの変異形があるが、いずれにも al- が付いている。alfanje の語源となるアラビア語は次の通りである。  
خُنْجَر 【男】短剣（語根なし）
- 8) もちろん、guitarra のようなギリシア語起源の単語で al- のついていない語もあるので、絶対的とは言えない。
- 9) アカデミアの辞書1936年版に記載の綴りを転載した。語根は不明である。
- 10) アカデミアの辞書1936年版に記載の綴りを転載した。語根は不明である。
- 11) スペイン語には macsura「マクスーラ：モスクの支配者や指導者専用礼拝施設」というアラビア語起源の語がある。もともとのアラビア語 مَقْصُورَة では、「短縮された、制限された」の意である。大きく意味が変化している場合に、al- がつかない証拠の1つである。反対に alcázar「王宮、王城」では、元のアラビア語 قَصْر qasr でも「【男】城」という意味なので、al- が付いていることをうまく説明できる。

- 12) アラビア語では形容詞だから al を取ることがないわけではない。例えば、Guadalquivir の alquivir という部分は、「大きい」كبير に لがついている。ただし、形容詞の前についている場合は、語の先頭ではなく、何らかの名詞を伴っている。
- 13) アラビア語定冠詞の al- にラテン語起源の単語が続く場合がある。例えば、次の2例がそうである。

almeja 「(アサリ・ハマグリなどの) 二枚貝」 < ár. al + lat. mitulu,

alpiste 「クサヨシ属の一種；その種子」 < ár. al + lat. pistu

この2語のラテン語起源部分には子音を3つを含んでいる点が見逃せない。今のところ、al- にラテン語起源の単語が接続されている場合、必ず子音は3つで構成されている。例に挙げた almeja は、m-t-l の3子音を含んでおり、alpiste は p-s-t とこれまた3つである。子音3つで構成されていれば、アラビア語の雰囲気を感じとれるとすると、「al+ラテン語起源の単語」もうまく説明がつく。スペイン・セビージャ県にある地名 Guadalcanal の canal も、canal がラテン語起源の単語であるのだが、直前に al- を含んでいて、この canal も子音3つを含んでいる。子音3つの語根のように感じられたとすれば、これもまた合点がいく。

## 参考文献

### 【和文参考文献・著者の五十音順】

アラビア語検索エンジン アラジン ver.1 <http://www.linca.info/alladin/>

岡本信照 (2021) 『スペイン語の語源』 白水社。

土井裕文 (2023) 「スペイン語の教科書に現れるアラビア語起源語：文法用・会話用教科書における分析」  
『関西外国語大学研究論集』 117、63-78。

寺澤芳雄 編集主幹 (1997) 『英語語源大辞典』 研究社。

新妻仁一 (2009) 『アラビア語文法ハンドブック』、白水社。

長谷川信弥 (2011) 「カタロニア語におけるアラビア語起源の語彙についての考察」 *Estudios Hispánicos*  
36、7-14、大阪大学外国語学部スペイン語部会 編。

布施温 (1971) 「スペイン語とアラビア語」 『愛知県立大学紀要 (言語・文学編)』 5、47-62、愛知県立大学。

布施温 (1982) 「なぜアラビア語sinはスペイン語sに対応しなかったか」 『宮城昇教授還暦記念論文集』、  
63-79、東京スペイン語学研究会。

前田信夫 (1998) 『スペイン語のなかのアラビア語起源小辞典：イスラムスペイン800年の言葉と文化の遺産』、芸林書房。

水戸博之 (2022) 「イスパニスタから見たアラビア語」 『スペイン学』 第24号、154-171、京都セルバンテス懇話会編、論創社。

- 水戸博之 (2023) 「アラビア語起源のスペイン語彙に関するいくつかの考察」『スペイン学』第25号、94-113、京都セルバンテス懇話会編、論創社。
- 三好準之助 (1984a) 「スペイン語語彙のなかのアラビズムに関する移入機構の分析モデル」『京都産業大学国際言語科学研究所所報』5 (2)、12-31。
- 三好準之助 (1984b) 「スペイン語語彙におけるアラビズム」『ロマンス語研究』Vol. 17、29-37、ロマンス語学会。
- 吉田秀太郎 (1957) 「イスパニア語に及ぼしたアラビア語の影響」『大阪外国語大学学報』5、95-112、大阪外国語大学。

【欧文参考文献】

- Lindqvist, Ingemar (2021) *Arabismos en el español cotidiano Un estudio diacrónico de frecuencias*, Stockholms universitet.
- Bruguera i Talleda, Jordi (1996) *Diccionari etimològic*, Diccionaris Complementaris.
- Coromines, Joan (2008) *Breve diccionario etimológico de la lengua castellana*, Gredos.
- Millar Cerda, María Angélica (1998). "Los arabismos en la lengua española", *Boletín de Filología*, 37(2), Pág. 781-801. <https://repositorio.uchile.cl/bitstream/handle/2250/134131/Los-arabismos-en-la-lengua-espanola.pdf>
- Real Academia Española (2008) *Nuevo tesoro lexicográfico de la lengua española* (NTLLE) <https://apps.rae.es/ntlle/SrvltGUISalirNtlle> [最終閲覧日2023年10月23日]
- (2013- ) *Diccionario histórico de la lengua española* (DHLE) [en línea]. [最終閲覧日2023年10月23日]
- (2014) *Diccionario de la lengua española*, <https://dle.rae.es> [最終閲覧日2023年10月23日]

(どい・ひろふみ 外国語学部准教授)